

令和6年度無償資金協力（UNICEF 連携）子育てアプリの公式発表会

2月13日、横谷薫次席は、「プロジェクト RISE (Registration, Innovation, Support, Empowerment) : 日本のイノベーション技術を活用した、レソトとジンバブエにおける子供・妊産婦の健康と子育て支援のデジタル変革」で、日本の AI 技術を取り入れジンバブエ向けに改良された子育てアプリ「Rerai Umntwana」の公式発表会に出席しました。このプロジェクト RISE は、日本による 200 万米ドルの支援により、ジンバブエ保健・育児省及び UNICEF との連携の下、実施されています。

ジンバブエの5歳未満の乳幼児約 200 万人のうち、76.2%が貧困下にあり、国のデータによれば、子どもの 23.8%が発育障害、4.3%が消耗症、4%が過体重で、25%が深刻な食料不足を経験しており、日常的に2つ以下の食品群からしか食事を摂取していないことが多いとされています。こうした課題に対応するため、ジンバブエは日本及び UNICEF と連携し、Rerai Umntwana 子育てアプリというデジタルソリューションをアフリカで初めて導入しました。

Rerai Umntwana 子育てアプリは、UNICEF が開発したモバイルアプリ「Bebbo」を日本の会社である NEC の AI 技術を用いて、ジンバブエに適合させたアプリで、0~6 歳の子どもを持つ親や養育者にエビデンスに基づく育児情報と対話型サービスを提供し、子どもの成長・発達を支援します。

このアプリは、早期学習、保健、栄養と母乳育児、応答的育児、児童保護・安全、保護者のウェルビーイングに対応しており、その名称はショナ語とンデベレ語を組み合わせ「子どもを育む」を意味しています。

公式発表会は、ハラレ市のグレンビュー・ポリクリニックで開催され、横谷次席の他、スレイマン・ティミオス・クウィディニ保健・育児副大臣、ジェイコブ・マフレ・ハラレ市長、、エトナ・エコレ UNICEF ジンバブエ代表、医療従事者や妊産婦を含むグレンビューの住民が参加しました。

このプロジェクトは、初期段階で都市部及び都市近郊部のコミュニティの約 2 万人に恩恵をもたらすことが見込まれており、その中には親、養育者及び第一線の医療従事者が含まれます。



式典の様子



横谷次席のスピーチ



式典に参加している妊産婦



クワイディニ保健副大臣らと記念撮影



アプリの説明バナーなど

